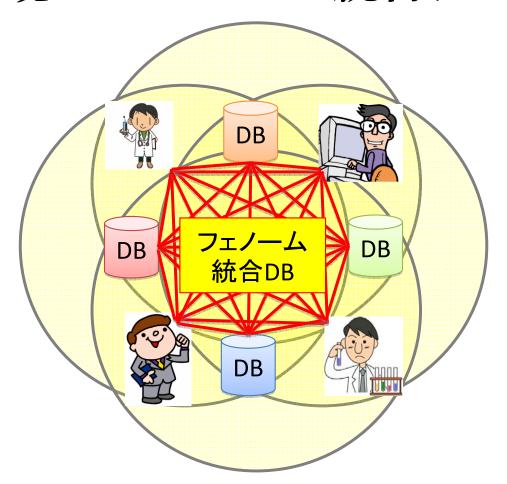
# 生命と環境のフェノーム統合データベース



(独) 理化学研究所 豊田哲郎

(cc) BY

# フェノーム情報統合の重要性 生物階層の『最上層』 - 生命科学の最重要課題

分野別に分かれやすい フェノーム プロテオ トランスクリプトー』 ゲノム 分野横断的にまとまりやすい

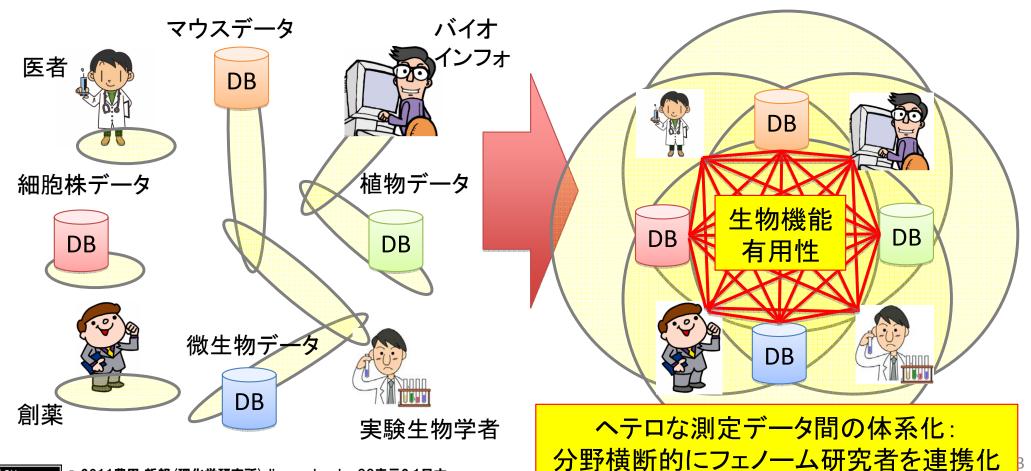
# 生物種横断的な研究コミュニティ群の連携化

### 現状

情報やコミュニティは分断されている (主に分子を介した限られた範囲の データ連携)

#### フェノーム統合DB

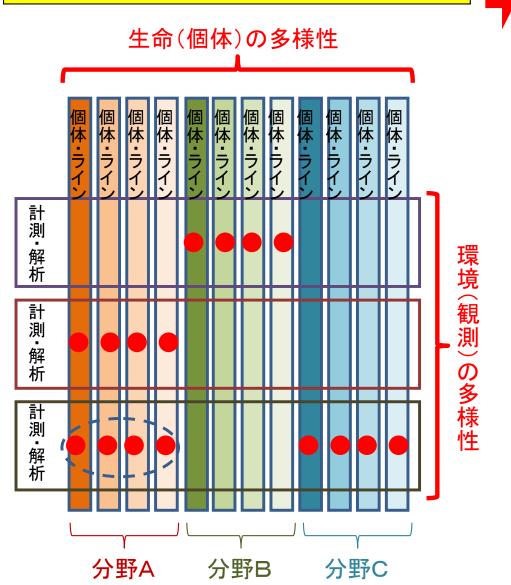
データの体系化によって、広範囲の 「測定データ=表現型」を統合。 コミュニティ同士を連携させる。



# 知能化技術の活用 分野を越えて適用可能な解析技術を自動判定して提案

分野ごとに異なる計測や解析技術

分野横断的に計測や解析技



生命(個体)の多様性 個体・ラ 個体・ライン 個体・ライン 個体・ライン 計測・ 解析 環境(観測)の多様性 計 測 解析 計 測・解析

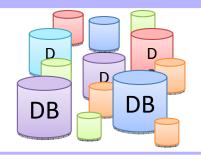
分野の壁を越えて適用可能な計測方法や 解析技術を自動的に提案するワークフロー

(cc)) BY

# 知能化技術を適用するために、 個々の観測結果をオントロジーで体系化

情報収集および整備

各種計測結果 データベース



フェノーム統合 データベース

遺 伝 リ 別 子 環 十 手 時 確率変数 型 境 ス 段 間

P(X | G, E, R, M, T)

で体系的に整理された情報

情報分類基盤: オントロジー

文献キュレーション



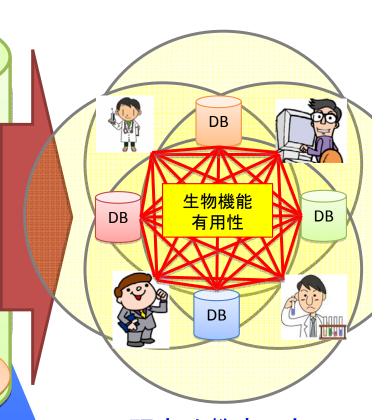
メタデータ・ オントロジー整備

公共オントロジー

技術基盤: セマンティックWeb

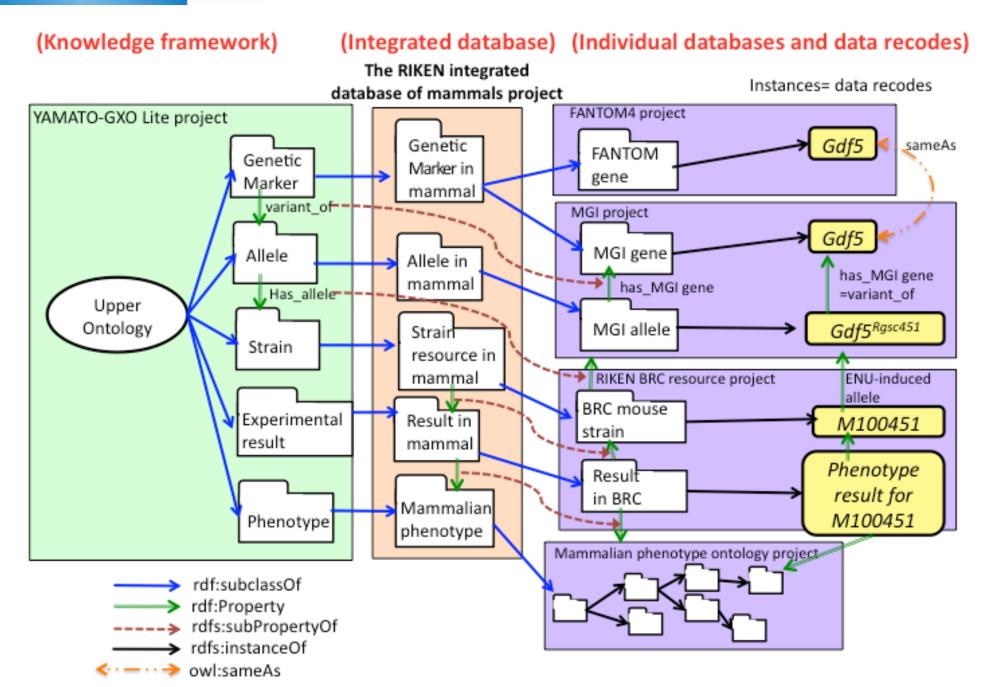
分野横断的な専門家の交流

フェノーム統合データベースによって、 異分野のコミュニティを連携させる。

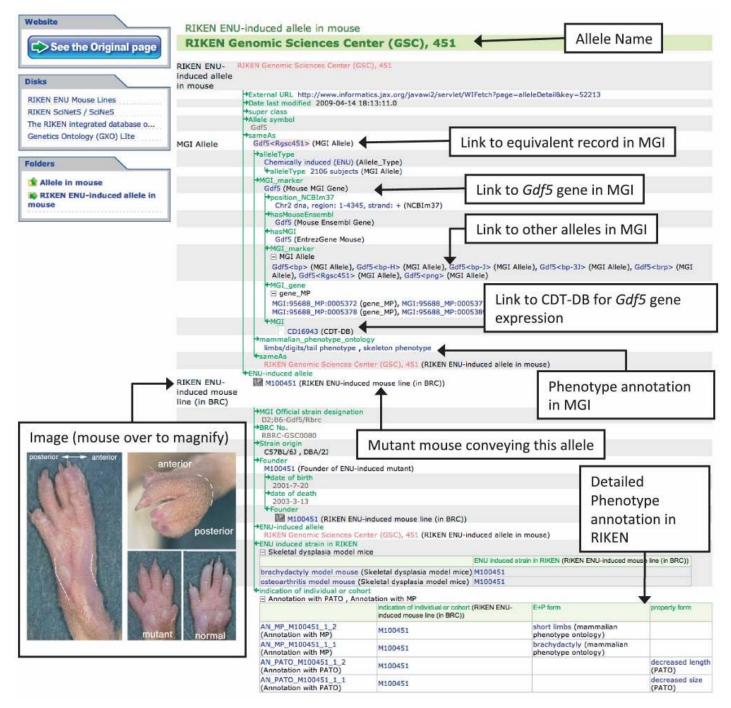


研究や教育にも わかりやすく

# SciNets オントロジーに基づくデータの統合(動物・植物)



# セマンティックウェブによる知識統合化



### 例、バイオリソース(哺乳類および微生物)のフェノーム統合

バイオリソースDB (理研)

マウス系統 3200系統

培養細胞株 (ヒト、マウス、 ラットその他哺乳類) 2200株

> 微生物株(JCM) 19900株

文献キュレーション

測定データ アノテーション フェノーム情報公開へ

表現型リスト

関連疾患

統合DB

遺伝子機能

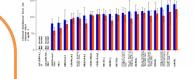
健康への関 与(体内微生

#### マウス・ラット詳細表現型DB

ラットNBRPデータベース(京都大学) 543系統

> ENU Mouse Line (理研) 日本マウスクリニック(理研) 348系統+継続分

コンソミック系統(国立遺伝研) 29系統



OBOオントロジーおよび メタデータ整備

ヒト表現型(疾患)オントロジー 哺乳類表現型オントロジー 各種メタデータ整備

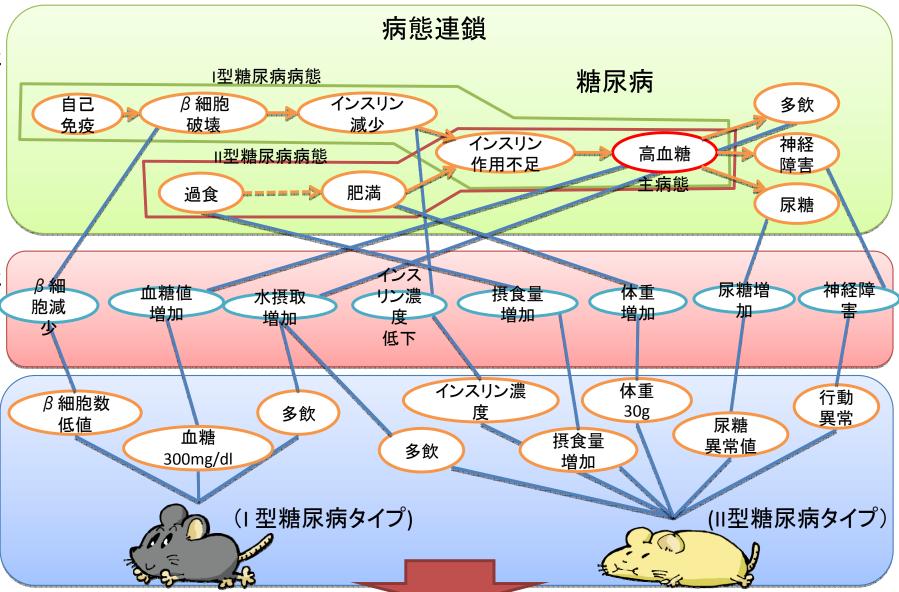
# (展望)厚労省・臨床医学オントロジー事業との連携

(医療情報システムのための医療知識基盤データベース研究開発事業)

標準化された 病態 データベース (臨床医学オントロジー)

標準化された 表現型情報 ( (フェノーム)

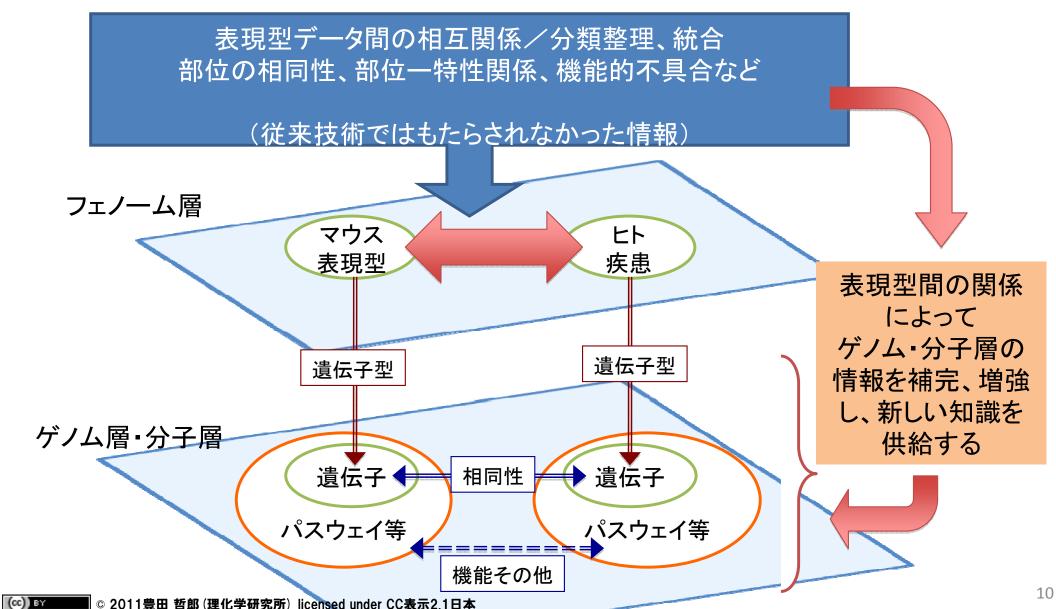
モデル生物 測定データ

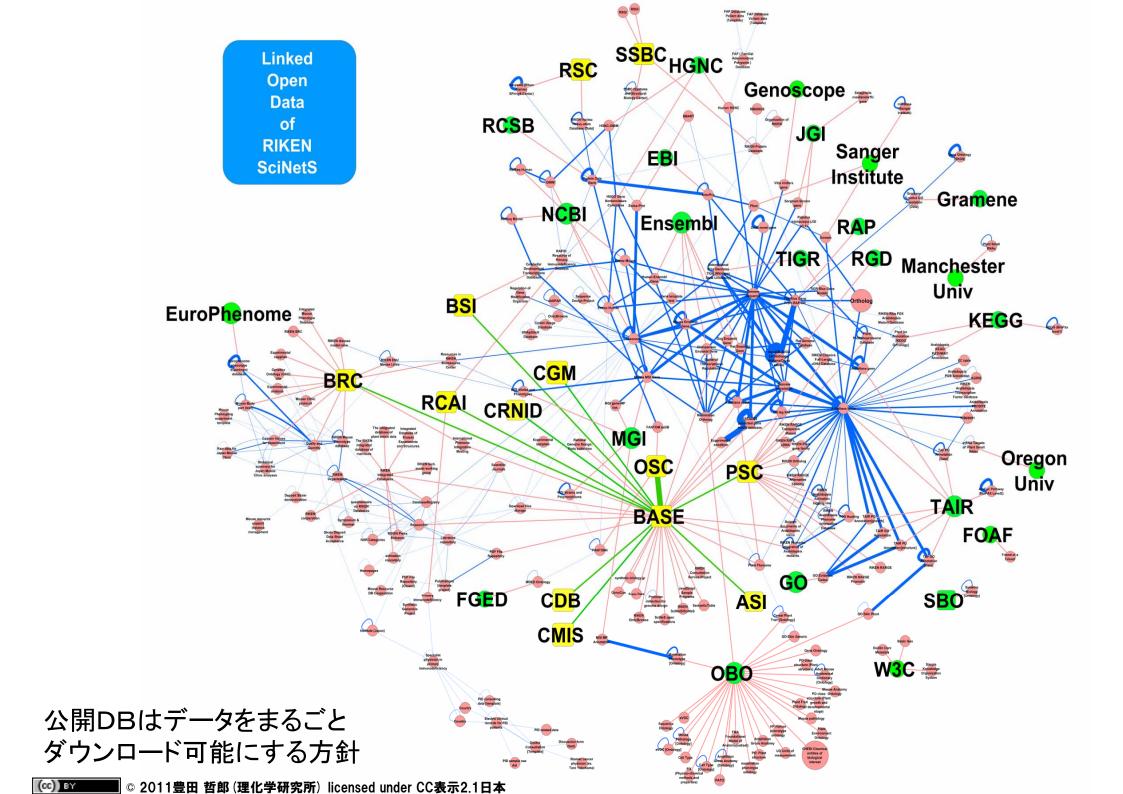


疾患モデ ルの推論

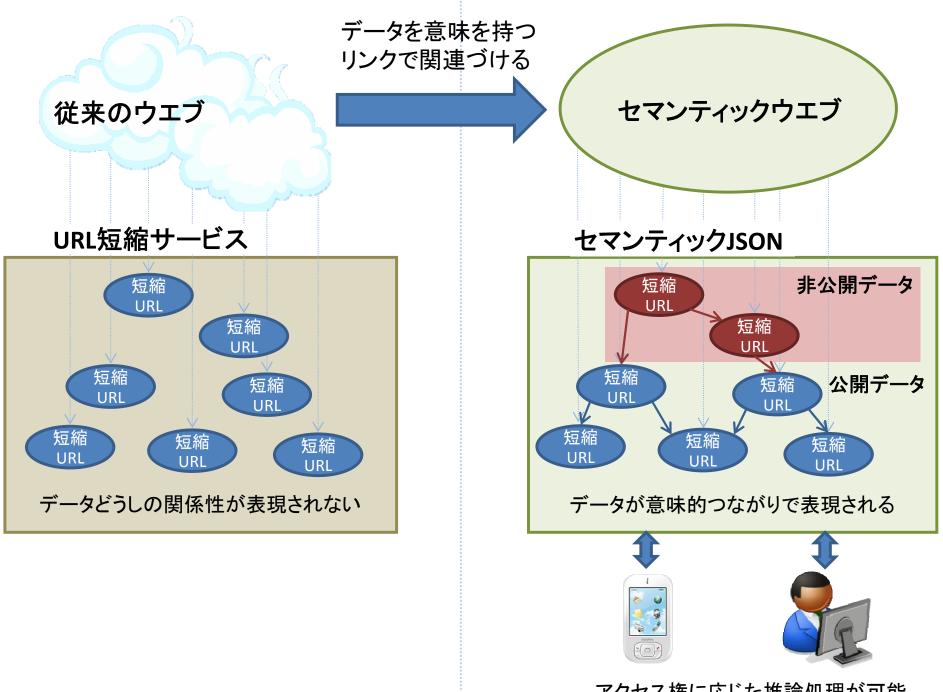
テーラーメイド医療時代に合った、従来より詳細な病態モデルタイプの推論

## 本課題では、生物種、測定方法等を超えて、 表現型間の相互関係を推論(計算)可能とする。





#### 生物種横断的にフェノーム情報を活用できるインタフェースの開発 Semantic-JSON



#### フェノーム利用ワークフロー開発

キーワード:

糖尿病

検索対象:

▼疾患モデル動物

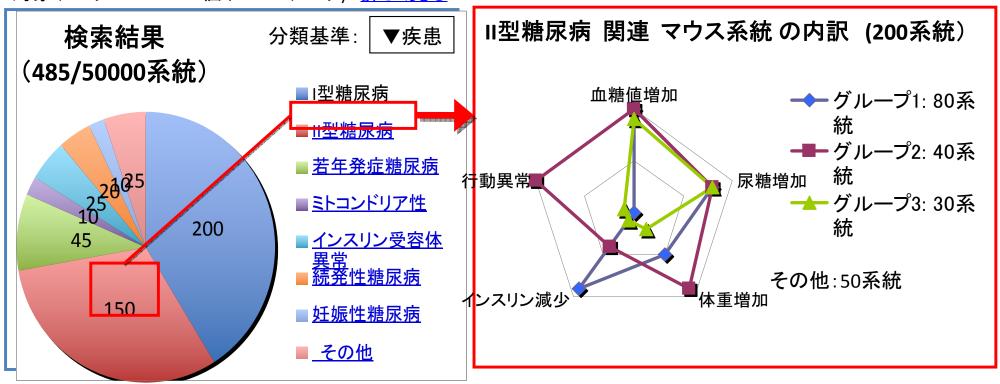
生物種:

▼マウス

結果:

(cc) BY

対象データベース: 12個(50000データ) 詳しく見る



マウス系統 (100系統: 疾患関連: |型糖尿病、測定値:インスリン減少)

| 系統名 |     | 変異遺伝子 | 変異タイプ        | 保有機関     | 文献 | (Salah) |
|-----|-----|-------|--------------|----------|----|---------|
|     | 系統1 | 遺伝子A  | 機能欠失型・ノックアウト | 理研BRC    |    |         |
|     | 系統2 | 遺伝子B  | 機能低下型・自然変異   | Jackson研 |    |         |
|     | 系統3 | 遺伝子C  | 機能獲得型・ノックアウト | 理研BRC    |    | 13      |

# 研究開発の主なスケジュール

| 研究開発項目   | H23年度 | H24年度    | H25年度 |
|--|-------|----------|-------|
| 1. フェノタイプ記述子の体系化<br>・プロパティ標準化と評価(豊田)<br>・識別子体系化と評価(桝屋)   |       |          |       |
| <ul><li>2. フェノーム統合化</li><li>・バイオリソースフェノーム(桝屋)</li><li>・先端計測データフェノーム(豊田)</li></ul>                          |       |          |       |
| <ul><li>3. フェノーム利用ワークフロー開発</li><li>・インタフェース開発(豊田)</li><li>・連携支援システム開発(豊田)</li><li>・ダウンロードサイト(豊田)</li></ul> | •     | <b>◆</b> |       |

#### 国内連携

(cc) BY

- + 他の統合化事業のデータベースと連携化
- + 厚労省「臨床医学オントロジープロジェクト」との連携
- + 民間企業の計測サービスとの連携
- 国際データベース連携網の強化
  - + IAIC, MGI等との連携
  - + OBOコンソーシアムとの連携
  - + 例)マウス表現型国際コンソーシアム
- 実験系の「標準化」を推進
- ペースパットで発行に」を推進 + バイオリソースの高度化・高付加価値化 不更な実験の判決
  - + 不要な実験の削減、新しい仮説の提唱

